

平成18年3月吉日

各位

株式会社 鶴 弥  
代表取締役社長 鶴見 栄

## 新設備「プレカット工場」稼動のお知らせ

この度、屋根工事現場の廃材削減に関する取り組みを推進するため、粘土瓦の「プレカット（事前に建材などの加工をする事）」対応として、かねてより進めてまいりましたプレカット工場の建設を完了し、平成18年3月より稼動を開始する運びとなりましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. プレカット工場の建設・稼動を開始した経緯

従来の瓦葺き工事においては、屋根の隅部分の形状に合わせて、施工現場で瓦をカットしていたため、使用しない廃材が産業廃棄物として大量に発生するとともに、加工作業による騒音の現場近隣に対する影響や、現場加工の手間による作業効率の低下などが問題となっておりました。これに対し、事前に粘土瓦メーカーにおいて必要な形状に加工した製品を施工現場に納入することで、現場における廃棄物0（ゼロ）に向けた「ゼロエミッション」の実現に近づくとともに、騒音の低減などの環境配慮、全体工期の短縮によるコストの引き下げ、作業環境の安全性向上など幾多の効用が見込まれることとなります。住宅・建築における品質・建築基準・廃棄物処理などに関する法整備が急速に進められている状況下、住宅メーカー様や工務店様を始め、建材プレカットの需要は拡大しており、粘土瓦メーカーとしてもプレカット対応は必須と考えられます。当社としましては、環境配慮、コスト効果などの顧客満足を達成するためにも、自社内で製品のプレカットを行い迅速に加工製品を供給できる体制を整備することと致しました。

#### 2. プレカット工場設備等の概要

- 1) 着工：平成18年1月
- 2) 完工・稼動開始：平成18年3月
- 3) 設備投資額：30百万円
- 4) 建物面積：約210㎡（阿久比工場敷地内に建設）
- 5) 加工製品：
  - F形（洋形）防災瓦 スーパートライ110タイプ（10パターン）
  - F形（洋形）防災瓦 スーパートライ110タイプ（10パターン）
  - M形（洋形）防災瓦 スーパートライ110サンレイ（2パターン）
- 6) 加工能力：52千枚/月
- 7) 人員：日勤3名

#### 3. 粘土瓦のプレカットにおける特長

- 1) 現場廃材の減少とともに、現場での廃材処理の手間が低減される。
- 2) 現場での加工作業の省力化と、工事の安全性向上。
- 3) 現場・現場近隣環境の向上（加工による騒音・粉塵の発生を低減）。
- 4) 工期短縮による住宅生産コストの引き下げに寄与。
- 5) 一般的な屋根の設計における瓦の規則的な配列・寸法の特性から、勾配や段数の要素のみで簡易な積算が可能であるとともに、高額な専用ソフトが不要。

#### 4. 業績に対する影響

稼働後1年間の販売見込み : 62百万円

#### 5. 従来の加工とプレカットの比較

##### 【従来】



##### 【プレカット】



#### 6. 今後の展開

- ・ プレカット工場で廃材が集約されることによる、二次製品への展開の可能性  
プレカット工場の運営により、現場での廃材処理の手間を低減するのみでなく、加工後の廃材がプレカット工場に集約されることにより、廃材の二次製品への展開を行いやすくする環境が整うこととなります。
- ・ プレカット需要増加に備えた、加工能力の増強
- ・ 粘土瓦生産ラインとプレカット工場のスムーズな連携体制の構築

以上